

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

### 平成25年3月13日 地域移行部会を開催しました！

#### 【テーマ】

☆『地域移行と地域定着～わたしの体験～』

☆情報交換



24年度第4回の地域移行部会を3月13日に開催しました。区内外から43名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

この部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討しています。今回もフロア一体となって、積極的に意見交換を行いました。

## 『地域移行と地域定着～わたしの体験～』

障害者自立支援法改正法が施行され、平成24年4月から地域移行支援・地域定着支援が個別給付化されました。今回の部会では、「地域移行と地域定着」をテーマとし、当事者の方々から話題提供をしていただき、今後の地域移行、地域定着をどう進めていくべきかについて、全体で共有しました。



### ■Aさん(風の谷プロジェクト)

Aさん(ご本人)、風の谷プロジェクトの多田さん、サポートセンターきぬたの金川さんにお話しいただきました。

#### 【入院に至るまで】

- ▶大学卒業後、イトーヨーカドー系列で保安係として、22年間勤務していました。株の暴落や自らの浪費が原因で退職した後、ギャンブル依存症などで家を手放すことになり、ホームレスとなりました。ホームレスをしていた約10年間は常に気を張っていて、熟睡できることはほとんどありませんでした。
- ▶3年ほど前に、レストランで無銭飲食をしてしまい、逮捕されました。保護後、検察官通報され、精神科病院へ措置入院となりました。

#### 【入院～退院に向けて】

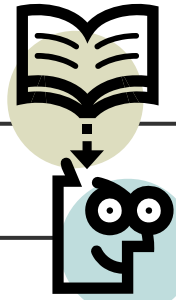
- ▶入院中は、メモ帳に「1秒でも早く退院したい」と何度も書きましたが、看護師の方に渡すことができず、メモ帳を破いて捨てていました。ずっと退院したいと思っていましたが、退院しても帰る家がないと思い、なかなか言い出すことが出来ませんでした。
- ▶約10か月の入院後、地域に戻るということが決まりました。始めは、病院の近くの地域に退院する予定で、病院のワーカーさんと話を進めていました。世田谷区に戻りたいとも思いましたが、ホームレスだったので、自分の希望を伝えてはいけないと思っていました。
- ▶病院のワーカーと退院に向けて話をしている時に、Aさんから、入院前は世田谷区に住んでいたことが分かりました。その話を受けて、「サポートセンターきぬた」へとつながることになりました。
- ▶退院して、地域で生活していく上でAさんから、「生活保護を受けることになった場合は、年金はもらえなくなるのですか」「病院から退院を勧められているので、退院後は通院をもうしなくてもよいのですか」等の質問がありました。



## ■Aさん(風の谷プロジェクト)(つづき)

### 【退院後～現在の生活】

- ▶▶退院に向けてのアパートは、すぐに決まり、ヘルパーを週3回入れ、新生活がスタートしました。
- ▶▶ヘルパーさんのお話から、Aさんはお話することが好きなようなので、もっとお話を出来る場を作ってあげてくださいとのご提案があり、「風の谷プロジェクト」へ通うようになりました。現在は週4回、「風の谷プロジェクト」に通っています。
- ▶▶「風の谷プロジェクト」では、食事のプログラムや所内清掃のプログラム、リフレッシュ体操等を行っています。「風の谷プロジェクト」では、最年長者であり、体力づくりのためにも、出来る限り「風の谷プロジェクト」へ通っていきたいと思っています。
- ▶▶ギャンブル依存症については、毎日出納帳を記載して、週1回多田さんに確認してもらっています。
- ▶▶「風の谷プロジェクト」では、Aさんの人柄もあり、他の利用者やスタッフなど、大変大きな影響を与えてもらっています。



## ■Bさん(いちごLiving)

Bさん(ご本人)、いちごLivingの山口さん、長谷川病院の菅さん、MOTAの玉置さんにお話しいただきました。

### 【入院～退院に向けて】

- ▶▶4年前に、精神科病院へ入院しました。退院に向けては、親族の受け入れが難しいということもあり、MOTAの協力を受けながら、お話を進めていきました。
- ▶▶退院の準備として、都立中部総合精神保健福祉センターの短期宿泊事業や作業所での就労B型の体験等に取り組み、退院の手応えを実感しました。退院につけての準備を半年ほど続け、退院にいたりしました。

### 【退院後～二度目の入院、退院】

- ▶▶退院と同時に、Bさんにとってショッキングな出来事が起こりました。気持ちが不安定になり、昼夜逆転したり、作業所も無断欠勤が続きました。そして、Bさんも再入院したほうが良いと考え、二度目の入院となりました。
- ▶▶入院してすぐに退院したいという気持ちが強くなり、再度MOTAに協力をいただき、グループホームの見学等、2度目の退院に向け準備を進めました。しかし、病院側との約束を破ったことにより、一度実家に退院しました。ただ、親族との関係性の問題から、MOTAの協力を得て、グループホームを探し始めました。そして、いちごLivingへの入居が決まりました。

### 【現在の生活】

- ▶▶いちごLivingに入所して、2年ほどが経ちます。最近は、病院で知り合った友人と喫茶店へ行ったり、週2回作業所にも通っています。
- ▶▶いちごLivingに入居して良かったことは、「親から自立した生活を送ることが出来る」「自分で身の回りのことを行わなくてはいけない」「グループホームにいる専門職に相談が出来る」ことです。あと、半年でグループホームを卒業しますが、二度と同じ過ちを繰り返さないように、日々頑張っていくつもりです。

いちごLiving、本人の趣味・特技、作業所の様子等を写真で紹介。



## ■フロアのみなさんとの意見交換をしました！！

(一部をご紹介します)

### ○病院では、食事等身の周りのサポートもあったと思うが、グループホームや単身での生活では、自分で行わなければならないことが多い。不安に感じたことはありませんか。

- ▶▶ (Aさん) 単身での生活は寂しいと感じることはありますが、「風の谷プロジェクト」に通っているのも、今はそれが支えとなっています。また、ヘルパーに週3回入ってもらっているのも、ヘルパーと話すことも支えになっています。それから、退院の際にお世話になった金川さんにも、感謝しています。今後の目標は、2020年の東京オリンピックを見ることで、頑張っていきたいと考えています。
- ▶▶ (Bさん) 都立中部総合精神保健福祉センターでの短期宿泊では、24時間サポートしてくれる方がいましたが、グループホームは、24時間体制ではありません。そのため、専門職の方がグループホームにいらっしやるときを見計らって、なるべくコミュニケーションをとるようにしています。

### ○入院中、退院したいと思えるようになったきっかけはどのようなことですか。

- ▶▶ (Aさん) 病院での生活は退屈でした。病院のケースワーカーさんや地域移行コーディネーターの方などと退院に向けて何度もお話をしました。退院後住む場所はなかったけれど、世田谷区に戻りたいとその際にお話しました。
- ▶▶ (金川さん) 医師や看護師等がご本人に声掛け行っているとは思いますが、すぐに退院へつながらない方もいます。サポートする側の方が根気強く、声掛けを行っていくことが重要だと思います。
- ▶▶ (Bさん) 退院したいという意思を強く持つことが大切だと思います。信頼できるスタッフに、自分の希望を伝えて、退院に向けて話しを進めて行くことも重要だと思います。
- ▶▶ (菅さん) 本人が地域に戻りたいと思っけていても、なかなか退院できない方もいますので、その点がつらいです。
- ▶▶ (フロアより・進藤さん) 具体的に退院したいという気持ちがあるが、本人や支援者等も見えない形で、プランとなっていることが重要だと感じます。

### ○最後に、地域に戻って生活したいと考えている方へのメッセージは。

- ▶▶ (多田さん) Aさんが住み慣れた地域での生活を取り戻されたように、ご本人の希望に沿った形で、退院できるようにサポートできればと思います。
- ▶▶ (金川さん) ご本人と会う前の情報だけでは、ご本人の考え方や希望等を読み取ることは出来ません。まずはお会いして、今後の進め方を考えていくことが大切だと思います。
- ▶▶ (Aさん) 入院中は、希望を持つことが出来ませんでした。現在は皆さんに支えられて生活できており、夢のように感じています。支えてくれている方を裏切らない行動をとっていきたくと思います。
- ▶▶ (山口さん) ご本人の特性に合わせて、プランを作成し、その時々で介入していくことが大切だと思います。また、アセスメント・介入・評価を行っていくことが大切です。入居者の方と多く関わる機会をもつために、グループホームの人員をもっと増やしていくべきだとも感じています。
- ▶▶ (菅さん) 多くの方が退院し、地域で生活していくことができるようにサポートしていきたいと思っています。
- ▶▶ (玉置さん) ご本人の人徳もあり、現在の生活があります。現在の制度の半年間で、退院のめどをつけるのは難しい部分もありますが、あきらめずに取り組んでいくことが大切です。退院に向けて、時間がかかることも、ご本人や支援者等が理解しておく必要があります。また、ご本人に対して、正しい見立てをしていくことが大切で、ご本人のやる気があれば、地域で生活していくことは出来ると思っています。
- ▶▶ (Bさん) 入院していることに慣れてしまいがちですが、支援の力を借りて、退院に向けて頑張りたいと思っています。

# 平成25年度の相談支援体制について一口メモ

## 『地域障害者相談支援センター』

平成25年度より、「委託相談支援事業所」が「地域障害者相談支援センター」へ変更となります。

センター名	所在地	TEL	FAX	相談支援事業所名
世田谷 地域障害者相談支援センター	世田谷区下馬 2-20-14	070-5079-5096	3410-3813	ケアセンターふらっと
北沢 地域障害者相談支援センター	世田谷区松原 3-30-17	6379-0262	3325-9519	地域生活支援センターMOTA
玉川 地域障害者相談支援センター	世田谷区中町 2-17-21	6411-6590	5707-2828	なかまっち相談室
砧 地域障害者相談支援センター	世田谷区祖師谷 3-1-3	6411-8953	6411-8954	まっばらけやき相談支援センター
烏山 地域障害者相談支援センター	世田谷区南烏山 4-20-4	6909-1743	6909-1741	相談支援 ここから

## 【地域障害者相談支援センターの概要】

### ○役割

- ・区民からの障害に関する相談に対応し、必要な情報提供・助言、支援、区・サービス提供事業者との連携・調整を行う。
- ・地区の特定相談支援事業者へのバックアップ
- ・特定相談支援事業者等の質の向上
- ・総合支所保健福祉課との協力・連携

### ○地域バランス

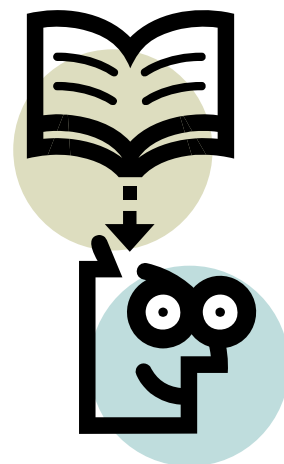
- ・各地域1つのセンターを配置する。
- ・他の地域の相談を受けた場合は、相談の内容を整理した上で、適宜それぞれの地域の「地域障害者支援センター」に引き継ぎを行う。

### ○障害への対応

年齢、障害種別に関わらず、障害者の相談に対応する。

## 第2部～情報交換～

- 平成24年度の「指定一般相談支援事業所」の地域移行・地域定着の報告
- 「東京都精神障害者地域移行促進事業」の報告
- 「世田谷区セーフティネット支援対策退院促進事業」の報告
- その他、自立支援協議会報告会について情報提供がありました。



今年度も、ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

部会で取り上げたいテーマや事例などありましたら、下記までご連絡ください。

